

2022. 3. 13 (日) マタイ28:18~20

**28:18** イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

**28:19** ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

**28:20** わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

<説教>

イエスは十一人の弟子たちに、「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ」(19a)とお命じになりました。

私たちの罪のために十字架で死なれ、三日目に死人の中からよみがえられたイエスの福音を、このイエスに〈天においても地においても、すべての権威が与えられてい〉ることを、「イエスは主です」(I コリント 12:3)ということ、イエス以外にはだれによっても救いはない(使徒 4:12)ことを、このお方だけに信頼して従うべきこと等々、イエス・キリストについて聖書の中に示されていることを宣べ伝え、告げ知らせるのです。

このイエスに心を向け、イエスを求め、イエスの教えを聞いて学び、イエスに信頼し、イエスに従うように〈世界の基が据えられる前から〉イエスにあって選ばれた(エペソ 1:4)イエスの弟子を、この地上において言うなれば探し出し見つけ出すのです。

このとき〈あなたがた〉と呼ばれた十一人の弟子たちは、言うなればキリスト教会の元とされた人たちでしたから、この「行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ」という命令は確かに私たちキリスト教会に与えられたものです。

そのようにイエスに従って「弟子作り」をする教会に、イエスは特に二つのことを行うように更にお命じになり、委託されました。

それが〈父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け〉(19b)ることと、〈わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教え〉(20a)ことです。

まず〈バプテスマを授け〉ることですが、それは〈父、子、聖霊の名において〉行うようにイエスは言われました。

それはつまり〈父、子、聖霊〉なる(三位一体)の神の権威によってということなのです。

確かにイエスは〈バプテスマを授け〉ることを教会にお命じになりましたし、更に言わば直接それを行うのは教会の中の誰でもいいというのではなく、牧師ですが、しかし教会や牧師の権威で〈バプテスマを授け〉るではありません。

「私は何々教会で」、または「私は何々牧師から」〈バプテスマを授け〉られたと誇らしげに自慢する人がときどきいるようです。

しかし、本当に人に〈バプテスマを授け〉るのは、そしてそのバプテスマを有効にしているのは、〈天においても地においても、すべての権威が与えられてい〉るイエス、そのイエスとその本質において全く同じ一つの神であられる父なる神、聖霊なる神なのです。

牧師が不祥事を起こしたり、最悪の場合棄教してしまったりした場合、過去にその牧師からバプテスマを授けられた人たちのバプテスマはそれでも有効なのか、それとも無効に

なってしまうのかという問題・論争がありますが、それでも有効だとしてよいのです。

神の〈名〉とは神ご自身と同じことですから、〈父、子、聖霊の名〉とは〈父、子、聖霊〉なる神ご自身ということです。

そして〈父、子、聖霊の名において〉の直訳は、「父、子、聖霊の名の中へ」です。

ですからバプテスマは〈父、子、聖霊〉なる神「の中へ」入れられること、神の権威によって、神のみこころによって、神の力で神との交わり、関係に入れられることです。

ですから、繰り返しになりますが、バプテスマを授けた牧師の不祥事や棄教ということは極端な実例としても、とにかくバプテスマは教会にしろ牧師にしろ、人間の権威によるのではなく、〈父、子、聖霊〉なる神の権威に100%よるのです。

教会（と牧師）も、ただ〈父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け〉なさいとお命じになったイエスに従って、そのとおりに行うのです。

〈父〉なる神はご自分の愛する御〈子〉イエスに私たちの罪を負わせ、イエスが十字架で私たちのために、私たちの代わりに罪の刑罰をお受けになることをご計画なされ、イエスをこの地上にお遣わしになりました。

〈子〉なる神イエスは〈父〉のそのみこころに従って私たちと同じ肉を持った人間としてこの地上に来られ、その生涯をかけて私たちの罪をその身に負われ、同時に十字架の死に至るまで〈父〉に完全に従って歩まれ、〈父〉に喜ばれ受け入れられる義人の生涯（罪無き生涯）を全うしてしてくださいました。

その十字架で流された〈御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます〉。(Iヨハネ1:7)

私たちは体の外的な汚れを水で洗い流してきれいにするのですが、ちょうどそれと同じように、御子イエスが十字架で私たちのために流してくださった血が確実に私たちの心の罪を洗ってきよくしてくださいます。

そうやって私たちは罪の赦しを受け、地獄の滅びを免れ、イエス・キリストにあるよみがえりの命、永遠の命を受けるのです。

バプテスマの水はこのキリストの血による罪のきよめの目に見え、体で感じる「しるし」なのです。

そんなバプテスマの実体、内容はキリストに「つく」「合わせられる」こと、キリストと同じように、キリストと一つにさせていただくことです。

〈それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたものではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。〉(ローマ6:3-5)

さて、そのように私たちが御子イエスの血によってきよめられるのは、実際に「イエスの血」なる液体（物質）を体に注がれることによるものではありません。

私たちが御子イエスの血によって洗われきよめられるとは〈聖霊〉が私たちの心に注がれてなされること、〈聖霊〉の不思議な、しかし事実、確実なみわざなのです。

〈父〉が計画し、〈子〉が従順に行われた救いのみわざを、〈聖霊〉が私たちのうちに

働いて適用してくださるのです。

〈神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。〉(テトス 3:5-6)

イエスご自身がかつてバプテスマのヨハネから水のバプテスマを受けられたとき、見事〈父、子、聖霊〉が働いていたことを思い起こします。(マタイ 3:13-17)

そのイエスから〈父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授けなさい〉と命じられた私たち教会は、イエスに従い、〈世の終わりまで〉(20)バプテスマを行うのです。